

1. 評価結果概要表

作成日平成21年11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102741
法人名	社会福祉法人 守里会
事業所名	グループホーム 邑
所在地	香川県高松市前田西町1080-18 (電話)087-847-1150

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価決定日	平成21年11月25日

【情報提供票より】(21年8月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	13人 常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 3階建ての2階～3階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	9名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	70歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香川県済生会病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物の2階・3階に各1ユニットあり、どの窓からも稲の出穂前の田園風景や山が見え自然に季節感を味わうことができる。毎週金曜日に開かれる陶芸教室や月2回第2・4火曜日に開かれる手作りパン喫茶があり楽しく過ごせるよう工夫され、地域の人も自由に利用できる地域に開かれた事業所である。また事業所や認知症の理解を深めてもらう為に、地域コミュニティセンターで月1回の福祉相談もしている。施設長・管理者・職員は理念の「ゆっくりと待つ介護:できることを見つけ、できることが増え、できることの達成感や充実感を共有し合える。生活を支える。」の実践に向け日常生活の中で自然な取り組みに日々努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で9つの改善課題があったが改善可能な課題から取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員が分担して実施し管理者がまとめ、勉強会で全職員が共有し、改善に向けて日々取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回定期的の実施している。事業所の現状や評価等全て報告され、参加者から意見をもらいサービスの向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に意見・要望を聞いたり、運営推進会議の案内を全家族に行い、参加した家族より意見・要望をもらい、それを運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事(文化祭・運動会等)に参加したり、事業所の行事(餅つき大会・そうめん流し等)に地域より参加があった。また、福祉相談を地域コミュニティセンターで月1回行ったり、地域の美容院や日々の散歩等で交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で開設時に考えた事業所独自の理念「ゆっくりと待つ介護：できることを見つけ、できることが増え、できることの達成感や充実感を共有し合える生活を支える。」をつくりあげている。ホーム内に明示はないが、事業所の役割として地域の人を支え、認知症についての理解を広めるために月1回コミュニティセンターで福祉相談を実施するなど、理念を実践に結び付けている。	○	理念は事業所の[鏡]であり、理念あつての実践であると思われるので、地域密着型サービスとしての理念の文書化に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は申し送りノートの表紙に、日々の気づきはノートに記載している。管理者や職員は、理念を共有すると共に理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(文化祭・運動会等)に参加したり、事業所の行事(餅つき大会・そうめん流し等)に地域より参加があったり、また福祉相談を地域コミュニティセンターで月1回行ったり、地域の美容院や日々の散歩等で交流に努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員が分担して実施し管理者がまとめている。自己評価・外部評価共に勉強会で共有し、改善に向けて日々取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回定期的に行っている。事業所の現状や評価等全て報告され、参加者から意見をもらいサービスの向上の努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当職員に何でも相談できる関係にあり、助言をもらうとともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態・日常生活については家族と職員の間はずれの無いよう面会時や電話でその都度報告している。定期的には月1回写真を添えて、家族等に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に意見・要望を聞いたり、運営推進会議の案内を全家族にし、参加した家族より意見・要望をもらい、それを運営に反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は、年2回(2月・6月)あるが最小限度の各ユニット1名程度で利用者のダメージを防ぐ配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外の認知症専門研修については、順番に参加している。法人内研修は法人研修センター等で2～3カ月に1回定期的にあり受講している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人に5施設あり、介護・看護・食改善等の部会や相談員・運営強化・感染褥創等の委員会を立上げ、各施設より1名ずつ参加し交流をしている。、討議内容は各施設で再度話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や他事業所の紹介で緊急に入居する利用者がほとんどであるため、入居前の関係づくりができない場合がある。入居後は家族と連携しながら早くその人らしい生活ができるよう努力している。	○	いかなる時でも利用者が安心してサービスが受けられるような今後の取り組みに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者・職員は、グループホームの一員として毎食のメニューを考えて材料準備・調理、盛り付け・片付けや掃除・花の水やりを共にしている。利用者からは人生の先輩として生活の知恵を教えてもらう等支え合う良い関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時やモニタリング時、また利用者の言葉や表情から思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が現在よりも良い生活ができるように、利用者や家族から意見・要望を面会時等あらゆる機会を通じて把握し、関係者はケアカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。しかしケアカンファレンスに家族の参加が見られない。	○	自己評価にもあるが、家族がケアカンファレンスに参加しケアのあり方等について話し合い、意見がもらえるよう今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には入居1カ月後に、また3カ月毎にモニタリングをし介護計画の見直しをしている。状況に変化のあったときは、その都度現状にあった計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス・小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、それぞれを選択しながら、希望者には馴染みの関係のまま最期まで支援している。ターミナル時家族の要望があれば、利用者の居室に宿泊等の支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医を決め受診できるよう支援している。嘱託医療機関がかかりつけ医の場合は、医師との連携も良く往診による支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、利用者や家族から重度化や終末期のあり方について意向を伺っている。実際重度化や終末期になった時、家族に再度意向を伺い確認して、方針を関係者全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声かけや対応は見られない。記録等の個人情報は特別に管理され保護されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の決まったスケジュールは無く、利用者の生活習慣やペースを大事にし、理念の待つ介護を実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、買い置きの食材から毎回利用者話し合い決めており、ユニット毎に異なっている。調理・盛り付け・配膳・食事・片付け等を利用者と共に楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時に入浴できるよう支援している。大きい風呂に入浴希望の利用者は、独り風呂でなく多機能を活かしてデイサービスの風呂にて楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、個々に合った役割(調理・洗濯・花の手入れ等)を生活歴等から汲み取り支援している。また食材等の買い物や散歩等楽しみ・気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って散歩や買い物等、日常的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、出入り口は鍵をかけていない。管理者や職員は、利用者がふつうの生活ができるよう、見守りに対応する支援をし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2階・3階のベランダは、どの部屋からも自由に出られ回廊式になっており一次(仮)避難できる。年1回消防署の方と共に避難訓練を実施している。その折、避難方法や誘導方法のアドバイスをもらいマニュアルも作成している。また地域の方々の協力が得られるよう地域の防災訓練に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分摂取量を記録し、職員間で共有し適正量になるよう工夫(シソジュース・紅茶ゼリー・ポカリゼリー等)し対応に努めている。献立が利用者の希望に添っているため、栄養バランスが配慮し難い現状である。	○	法人内の栄養士等による食改善委員会が、豊かな食生活をするために月1回開かれている。今後、食改善委員会を通じての学びや栄養面のバランスを考慮した取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に季節の花(白い百合)が一輪何気なく生けてあり、利用者は、ソファーや椅子・畳の間と好みの場所で自由に過ごしている。どの窓からも稲穂直前の田園風景や山が見え自然に季節感を味わうことができる。廊下の空間では毎週金曜日に開かれる陶芸教室や月2回第2・4火曜日に開かれる手作りパン喫茶があり楽しく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室7部屋と洋室2部屋があり選択ができる。布団等の寝具を始め全て馴染みのある物を持参し、家庭に居るような環境下で、居心地よく過ごせるよう家族と共に工夫している。		